

目的

平成16年度までに実施した全国保健師連携活動評価調査結果を基に、市町村別連携活動得点別に保健師集団を抽出し、これらの保健師における地域保健サービスの具体的な提供実態を明らかにすることを目的とした。すなわち連携活動評価得点群別に保健師の業務内容別時間を明らかにし、保健師の連携活動得点とどの活動実態との関連性を明らかにすることを目的とした。

なお本研究では、連携活動得点に関しては、平成15年度に実施した調査結果を基に、「高い」、「普通」、「低い」の3群に分類し、これらの群毎に地域保健サービスの具体的な業務内容とその連携活動能力結果との関連性等の分析を行った。

方法

市町村保健師の活動内容および活動時間調査

調査対象および方法

市町村保健師の活動内容別時間データは、厚生労働省健康局総務課保健指導室によって2年毎に実施している調査結果を利用した。これらの調査は、本省が各都道府県に対して市町村を人口規模別にサンプリングすることを依頼し、調査データの収集を実施しているもので全国データの収集、結果のとりまとめは、都道府県が行っている。

調査は、調査票を用いて対象保健師の調査月における業務従事時間が記入される方法を採用している。調査方法は、「保健師活動調査実施要綱」に基づいて行われ、都道府県が保健所、市町村の人口規模を考慮し、実施する市町村を選定している。

本研究において連携活動に関する全国調査とこの本省による保健師活動内容および時間調査が同時期に実施され、これらの活動内容別時間を厚生労働省からデータとして提供を受けることができたのは、135市町村であった。

調査内容

保健師の活動内容別時間に関する調査

市町村において地域保健福祉活動（介護保険業務を含む）に従事するすべての保健師の業務内容、業務量の現状を把握するため、「保健師活動調査記入要綱」に基づいて業務に従事する4時間を1単位とし、業務内容・時間により、1単位に満たない場合は0.5単位ずつ記入することが依頼している。

業務内容の記入区分は、これまで1.地区管理、2.保健福祉事業、3.コーディネート、4.教育・研修、5.業務管理、6.業務連絡・事務、7.研修参加、8.その他と大きく8分類が定められており、この分類別に、それぞれ中分類が示され、この中分類毎に業務時間のデータが収集されることになっている。

この結果、収集されるデータは、1.地区管理における調査・研究、地区管理の2分類、2.保健福祉事業のもとに、家庭訪問、保健指導、健康相談、健康診査、健康教育、デイケア、機能訓練、地区組織活動、予防接種、その他の10分類がなされ、3.コーディネートは、個別の会議と個別の会議以外の関係機関との連絡調整、地域の会議と地域の会議以外の関係機関との連絡調整の4分類がなされていた。4.教育・研修については、研修企画と実習指導の2分類があり、5.業務管理、6.業務連絡・事務、7.研修参加、8.その他には下位の分類はなかった。このことから、保健師の活動内容別時間の種類としては、22分類別の業務時間が算出され記入されることとされている。

市町村保健師の連携活動に関する調査連携活動に関する調査

調査対象および方法

今回分析に用いたデータは、全国すべての3,190市区町村に所属する保健師21,631名に対する郵送調査の結果である。ただし、調査実施前に、個々の市区町村宛てに当該市町村に所属する保健師所属部署を把握し、すべての市町村保健師に調査票が配布されるように依頼した。調査期間は2003年12月から2004年2月までの3箇月間である。

この調査の結果、1,959市町村の16,352名の市町村保健師に実施され、13,503部の調査票を回収した(回収率82.6%)。このうち、保健師活動調査を実施していた市町村は135市町村であり、その135市町村に存在していた保健師で連携活動調査の回答が得られたのは1,777名であった。

調査内容

連携活動調査に使用された調査票は2種類あり、「調査1」の調査内容は、対象者の基本的属性(性別、年齢、最終学歴)、勤務歴、所属機関、雇用形態、職位、連携する際の目的・時間・回数、新事業の企画、機関との連携の有無と有益性、専門職との連携の有無と有益性、連携活動状況、業務評価、精神的健康、介護保険業務についてであった。

「調査2」は、保健師が印象に残っている1事例について尋ねる調査票となっており、調査内容は、利用者の年齢、性別、相談内容、面接の頻度、面接の所要時間、事例の取り組みに対する評価、他の事例を担当していたか、1年間で対応する個別事例数、連携活動状況、機関との連携の有無と有益性、事例におけるトラブルについてであった。

機関との連携の有無と有益性に関する調査票は、「業務に際しての、機関との連携の有無とその状況(役に立っているかどうか)について尋ねる形式で以下の26機関について、ひとつずつ、最も該当すると思われる回答欄の番号に○印をつけてください。」とする26項目で回答を求めた。回答は「0点:連携していない」「1点:連携しているが、まったく役に立たない」「2点:連携していて、いくぶん役に立っている」「3点:連携していて、ほぼ役に立っている」「4点:連携していて、とても役に立っている」で求めた。専門職との連携の有無と有益性についても同様の方法で回答を求めた。これについては得点が高いほど、連携している機関/専門職を有益だと認知していると解釈した。

保健師における一般的な連携活動状況については、保健師らからのヒアリング調査によって得られた活動内容について「皆さんの一般的な保健師活動についてお伺いします?」として尋ねる形式とし、保健活動に関する15項目について回答を得た。回答は「0点:全くしない」「1点:あまりしていない」「2点:ある程度している」「3点:よくしている」などで求めた。得点が高いほど、一般的な連携活動を行っているものと解釈するものとした。

業務評価については、「仕事をする上で、あなたは日常的に以下の出来事をどれくらい体験しますか。また、あなたはその出来事についてどの程度負担に感じますか。」という問いへの回答とし、保健師らからのヒアリング調査によって得られた業務負担の理由に関する12項目で尋ね、回答を「0点:ない」「1点:時々ある」「2点:いつもある」、そのときに感じる負担を「0点:全く感じない」「1点:少し感じる」「2点:かなり感じる」で求めた。得点が高いほど、項目にあるような業務を頻繁に経験していて、負担に感じていると解釈するものとした。

精神的健康に関しては、General Health Questionnaire12項目版を使用した。この尺度は「ここ数週間のあなたの生活についておたずねします」とし、12項目について「できた:0点」「いつもと変わら

なかった:0点」「いつもよりできなかつた:1点」「まったくできなかつた:1点」などで回答を求めた。なお、項目1、3、4、7、11は逆転項目である。したがって、得点が高いほど精神的健康が低下していると解釈できる。

分析方法

連携活動評価調査と保健師活動内容及び時間のデータにおける市町村コードを基に二つのデータをマージした。保健師活動調査においては、同一の市町村で実施された保健師の活動調査時間の平均値を算出し、同市に所属する保健師の勤務時間とした。このように算出された保健師の活動内容時間と平成15年度の市町村保健師の連携活動に関する全国調査から得られた連携活動評価得点をはじめとする、連携活動に関する事項とを分析した。これらの統計解析に際しては、SPSS12.0J for Windowsを使用した。

結果及び考察

市町村保健師の連携活動得点と保健活動の実際との関係

基本属性（性別、年齢、学歴）

連携活動調査を実施した市町村において、同時期に保健師活動調査が実施されていた市町村は135市町村であった。これらの市町村で連携活動評価得点が算出されていたのは、1,777名であった。1,777名の保健師うち、男性が16名（0.9%）、女性が1,743名（99.1%）であった。

また、平均年齢は37.3歳（標準偏差9.44、範囲21-64歳）であった。30代（30歳から39歳）が599名（33.7%）と最も多かった。次いで40代（40歳から49歳）が496名（27.9%）であった。

最終学歴については、短期大学・専門学校卒業が最も多く1,399名（79.1%）であった。次いで4年生大学卒業が312名（17.6%）、高等学校卒業が34名（1.9%）、大学院修士課程修了が11名（0.6%）、その他が12名の順であった。

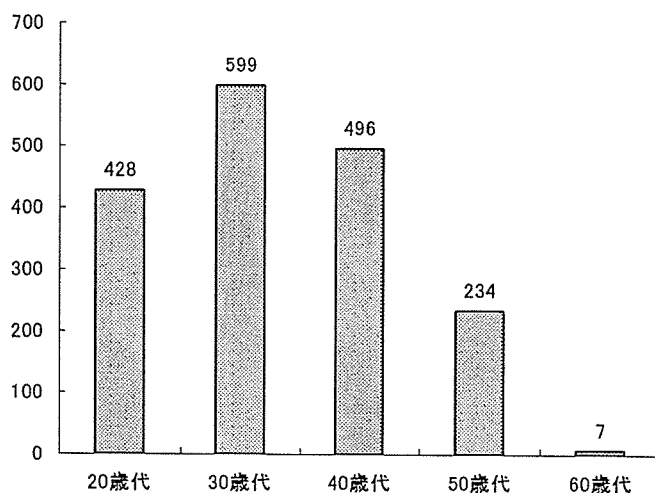


図 79 年齢

総勤務歴と所属勤務歴、所属部署、勤務形態

保健師としての総勤務歴については、平均13.5年（標準偏差9.31、範囲0-37年）であった。0～5年が最も多く466名（26.4%）であった。次いで6年～10年が318名（18.0%）であった。

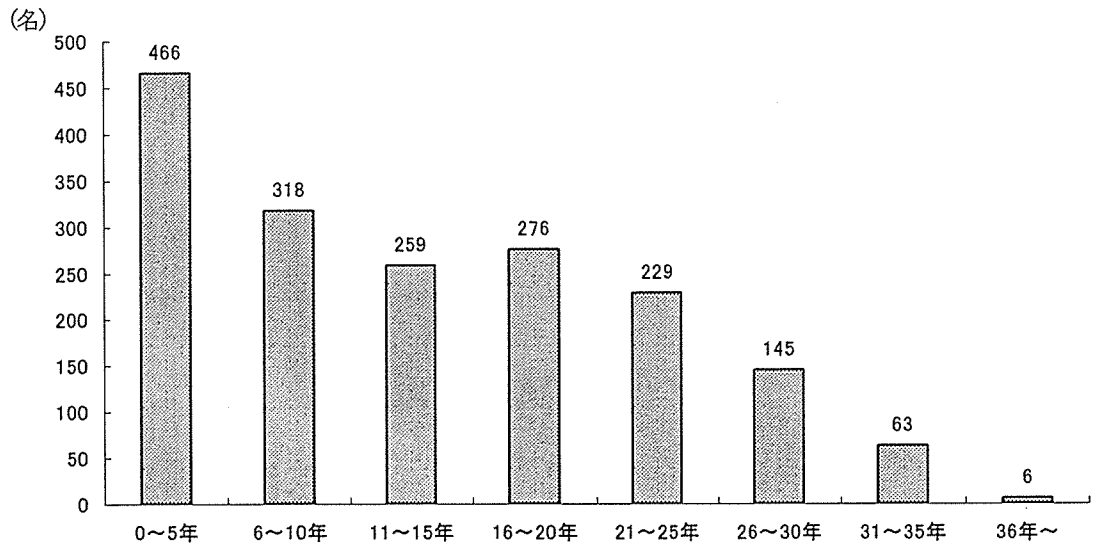


図 80 総勤務歴

現在の所属課での勤務歴については、平均6.4年（標準偏差7.31、範囲0-42年）であった。0～5年が最も多く1,075名（62.3%）であった。次いで6年～10年が286名（16.6%）であった。

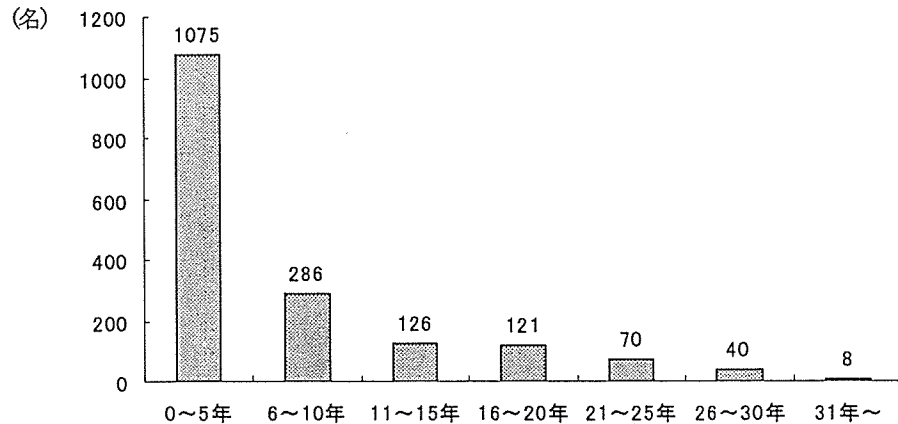


図 81 現所属課での勤務歴

所属部署については、保健分野が最も多く944名（53.7%）であった。次いで保健福祉分野が527名（30.0%）、福祉が133名（7.6%）、介護が100名（5.7%）、その他が51名（2.9%）であった。

(名)

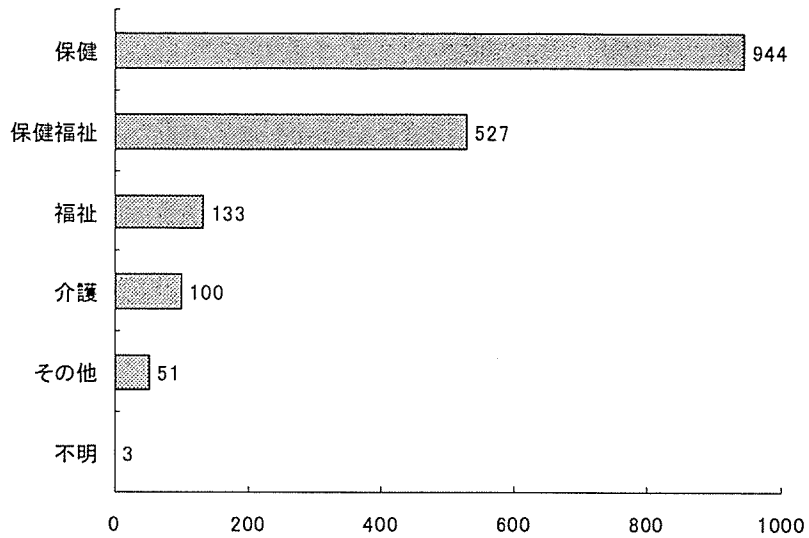


図 82 所属部署

勤務形態については、常勤が最も多く 1,738 名 (98.6%) であった。次いで臨時職員が 12 名 (0.7%)、非常勤が 6 名 (0.3%)、その他が 7 名 (0.4%) であった。

職位については、一般が最も多く 890 名 (50.5%) であった。次いで主任が 335 名 (19.0%)、主査が 193 名 (10.9%) の順であった。

(名)

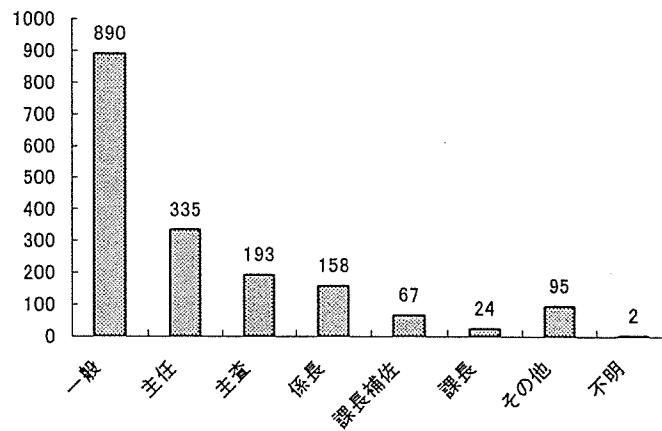
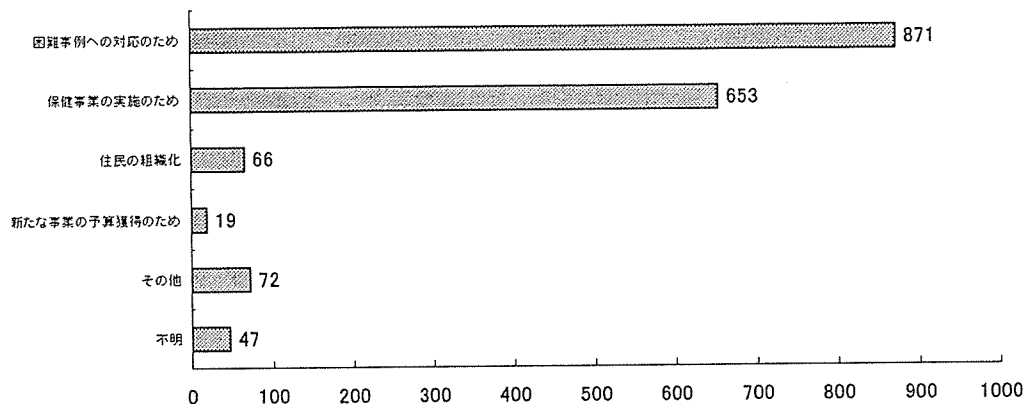


図 83 役職

連携の目的・時間・回数

連携の目的



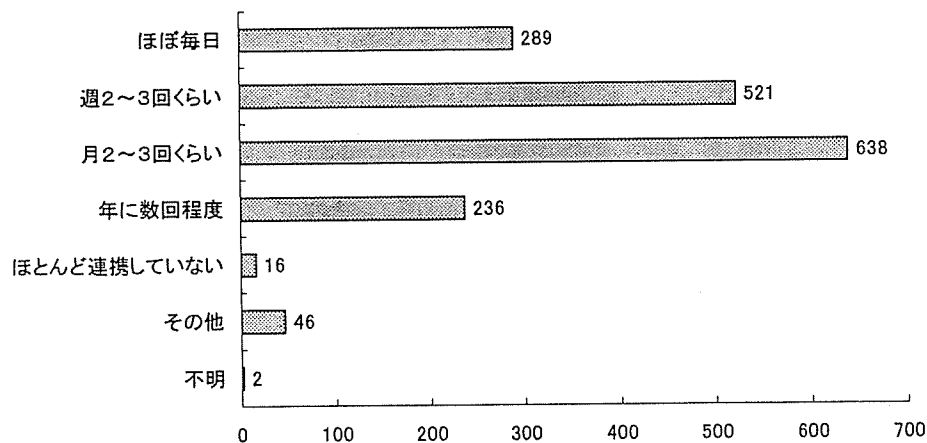
困難事例への対応のための最も多く 871 名 (50.4%)、次いで保健事業実施のための 653 名 (37.8%) であった。

図 84 連携の目的

連携活動時間

勤務時間内が最も多く 1,705 名 (96.9%) であった。次いで勤務時間終了後が 23 名 (1.3%)、勤務時間前が 19 名 (1.1%)、土日祝日が 2 名 (0.1%)、その他が 4 名 (0.22%) であった。

連携活動回数



月2~3回くらいが最も多く 638 名 (36.5%) であった。次いで週2~3回くらいが 521 名 (29.8%)、ほぼ毎日が 289 名 (16.5%) であった。

図 85 連携活動回数

新事業の企画

新事業の企画の提案

「はい」が898名(51.3%)、「いいえ」が851名(48.7%)であった。

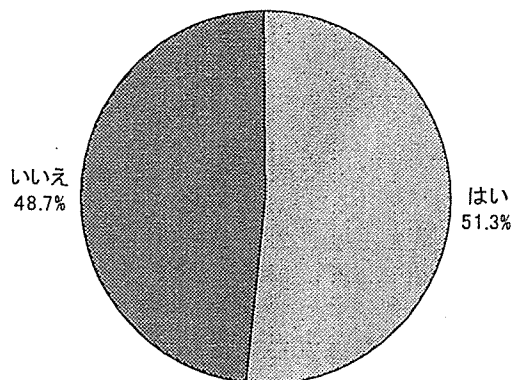


図 86 新事業企画の提案

予算書を書いた経験

「はい」が1,131名(64.4%)、「いいえ」が623名(35.5%)であった。

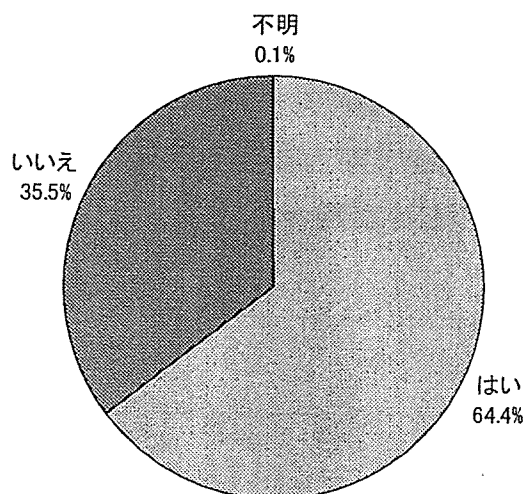


図 87 予算書を書いた経験

新規事業の実施経験

「はい」が508名(29.2%)、「いいえ」が1,234名(70.8%)であった。

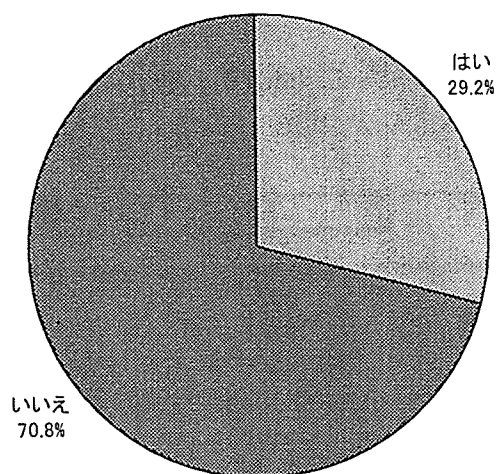


図 88 新規事業の実施経験

機関との連携の有無

機関との連携の有無及び有益性についての回答分布はの通りである。回答で「連携していて、とても役に立っている」が最も多かったのは「保健所・市町村保健センター」473名(26.6%)、次いで「役所内の他の部署・住民組織」468名(26.3%)、「在宅介護支援センター」449名(25.3%)であった。回答で「連携していない」が最も多かったのは「労働基準監督署」1,624名(91.4%)、次いで「企業」1,526名(85.9%)、「薬局」1,407名(79.2%)、「マスコミ」1,285名(72.3%)であった。

項目	*回答カテゴリー				
	0	1	2	3	4
X4 役所内の他の部署・住民組織	52 (2.9)	15 (0.8)	515 (29.0)	687 (38.7)	468 (26.3)
X1 保健所・市町村保健センター	58 (3.3)	42 (2.4)	483 (27.2)	558 (31.4)	473 (26.6)
X2 医療機関(診察所・病院)	86 (4.8)	29 (1.6)	637 (35.8)	661 (37.2)	340 (19.1)
X11 社会福祉協議会	338 (19.0)	45 (2.5)	599 (33.7)	492 (27.7)	271 (15.3)
X18 在宅介護支援センター	348 (19.6)	29 (1.6)	462 (26.0)	453 (25.5)	449 (25.3)
X10 福祉事務所	363 (20.4)	45 (2.5)	497 (28.0)	525 (29.5)	282 (15.9)
X7 保育所・幼稚園	437 (24.6)	18 (1.0)	467 (26.3)	494 (27.8)	331 (18.6)
X3 本庁(県庁、所属自治体中枢機関)	453 (25.5)	66 (3.7)	601 (33.8)	430 (24.2)	154 (8.7)
X9 児童相談所	526 (29.6)	73 (4.1)	515 (29.0)	416 (23.4)	217 (12.2)
X19 居宅介護支援事業所	560 (31.5)	38 (2.1)	482 (27.1)	380 (21.4)	288 (16.2)
X5 公民館	564 (31.7)	33 (1.9)	472 (26.6)	402 (22.6)	262 (14.7)
X15 訪問看護ステーション	617 (34.7)	41 (2.3)	567 (31.9)	333 (18.7)	186 (10.5)
X20 訪問介護事業所	722 (40.6)	32 (1.8)	501 (28.2)	298 (16.8)	193 (10.9)
X6 教育委員会	762 (42.9)	70 (3.9)	562 (31.6)	266 (15.0)	84 (4.7)
X8 学校(小・中・高・大)	816 (45.9)	76 (4.3)	561 (31.6)	225 (12.7)	68 (3.8)
X21 介護老人保健施設・介護老人福祉施設	832 (46.8)	43 (2.4)	494 (27.8)	242 (13.6)	133 (7.5)
X13 警察署・消防署	940 (52.9)	45 (2.5)	483 (27.2)	186 (10.5)	92 (5.2)
X16 精神保健福祉センター	1039 (58.5)	43 (2.4)	359 (20.2)	205 (11.5)	96 (5.4)
X14 検査機関	1044 (58.8)	22 (1.2)	271 (15.3)	239 (13.4)	168 (9.5)
X17 精神障害者社会復帰施設	1110 (62.5)	34 (1.9)	272 (15.3)	213 (12.0)	116 (6.5)
X12 知的障害者福祉施設	1122 (63.1)	29 (1.6)	338 (19.0)	178 (10.0)	74 (4.2)
X25 マスコミ	1285 (72.3)	17 (1.0)	308 (17.3)	80 (4.5)	33 (1.9)
X23 薬局	1407 (79.2)	20 (1.1)	232 (13.1)	67 (3.8)	22 (1.2)
X24 企業	1526 (85.9)	24 (1.4)	144 (8.1)	36 (2.0)	15 (0.8)
X22 労働基準監督署	1624 (91.4)	19 (1.1)	78 (4.4)	18 (1.0)	8 (0.5)

*回答カテゴリー

「0:連携していない」「1:連携しているが、全く役に立たない」「2:連携していて、いくぶん役に立っている」
 「3:連携していて、ほぼ役に立っている」「4:連携していて、とても役に立っている」

表 65 機関との連携状況尺度お回答分布(n=1777)

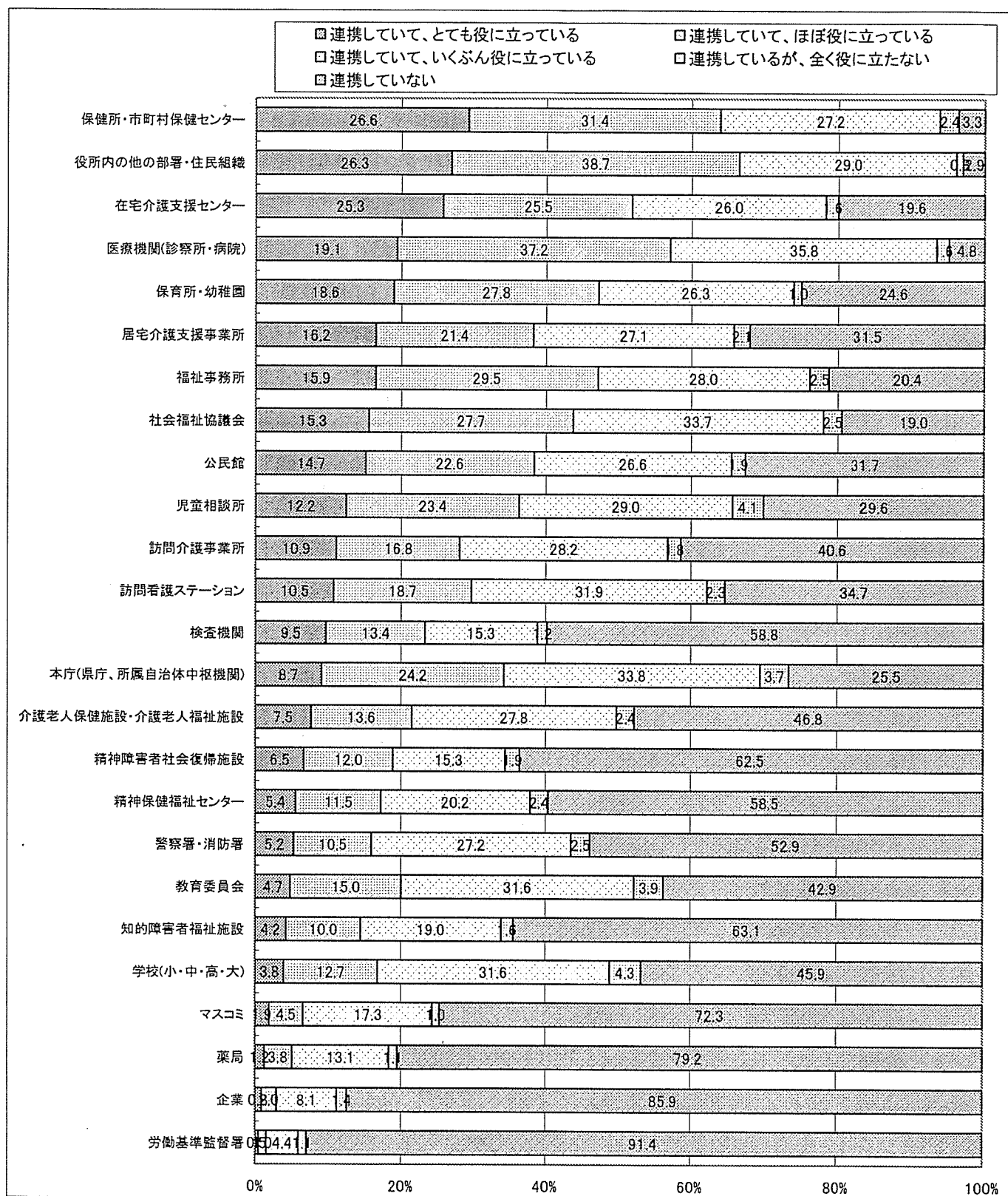


図 89 機関との連携の有無と有用性に関する項目の回答分布

専門職との連携の有無

専門職との連携の有無及び有益性についての項目 23 項 (X24 : 「その他」を除く) に欠損値のないデータ 11,822 名を対象に記述統計を行なった。回答分布は表 2、図 12 の通りである。

回答「連携していて、とても役に立っている」が最も多かったのは、「栄養士」6,345 名 (53.7%)、次いで「歯科衛生士」4,973 名 (42.1%)、「他機関の保健師」4,818 名 (40.8%) であった。

回答「連携していない」が最も多かったのは、「薬剤師」8,327 名 (70.4%)、次いで「精神保健福祉士」6,033 名 (51.0%)、「自主グループ」5,147 名 (43.5%) であった。

表 66 専門職との連携状況尺度の回答分布 (n=1777)

項目	0	1	2	3	4
X7 栄養士	181 (10.3)	11 (0.6)	230 (13.1)	399 (22.8)	932 (53.2)
X8 歯科衛生士	304 (17.4)	15 (0.9)	247 (14.1)	467 (26.7)	719 (41.0)
X2 他機関の保健師	45 (2.6)	11 (0.6)	360 (20.5)	625 (35.6)	713 (40.6)
X9 臨床心理士	544 (31.0)	10 (0.6)	210 (12.0)	359 (20.5)	631 (36.0)
X15 地区組織	456 (26.0)	26 (1.5)	351 (20.0)	392 (22.3)	530 (30.2)
X6 行政職	60 (3.4)	19 (1.1)	537 (30.8)	611 (35.0)	519 (29.7)
X1 医師・歯科医師	91 (5.2)	25 (1.4)	550 (31.4)	586 (33.4)	500 (28.5)
X11 保育士	470 (26.8)	11 (0.6)	336 (19.2)	438 (25.0)	496 (28.3)
X10 運動指導士	744 (42.5)	21 (1.2)	200 (11.4)	344 (19.6)	442 (25.2)
X13 民生委員	265 (15.1)	20 (1.1)	526 (30.0)	506 (28.9)	436 (24.9)
X3 看護師・訪問看護師	296 (17.0)	22 (1.3)	484 (27.8)	509 (29.2)	431 (24.7)
X23 理学療法士・作業療法士	561 (32.3)	30 (1.7)	372 (21.4)	366 (21.1)	408 (23.5)
X20 ケアマネージャー	447 (25.5)	32 (1.8)	471 (26.9)	425 (24.3)	375 (21.4)
X4 助産師	669 (38.3)	15 (0.9)	293 (16.8)	396 (22.7)	373 (21.4)
X21 社会福祉士・CW・MSW	449 (25.6)	27 (1.5)	481 (27.4)	434 (24.8)	362 (20.7)
X19 ホームヘルパー・介護福祉士	577 (33.0)	33 (1.9)	488 (27.9)	386 (22.1)	264 (15.1)
X22 精神保健福祉士	911 (52.2)	24 (1.4)	311 (17.8)	249 (14.3)	249 (14.3)
X16 自主グループ	743 (42.5)	25 (1.4)	442 (25.3)	301 (17.2)	236 (13.5)
X17 ボランティア団体	748 (42.8)	30 (1.7)	445 (25.4)	293 (16.8)	233 (13.3)
X14 自治会	680 (38.9)	35 (2.0)	507 (29.0)	300 (17.2)	226 (12.9)
X18 一般地域住民	542 (31.1)	31 (1.8)	658 (37.8)	307 (17.6)	202 (11.6)
X12 養護教諭・学校教諭	836 (47.8)	58 (3.3)	486 (27.8)	250 (14.3)	120 (6.9)
X5 薬剤師	1181 (67.8)	38 (2.2)	338 (19.4)	122 (7.0)	62 (3.6)

*回答カテゴリー

「0:連携していない」「1:連携しているが、全く役に立たない」「2:連携していて、いくぶん役に立っている」

「3:連携していて、ほぼ役に立っている」「4:連携していて、とても役に立っている」

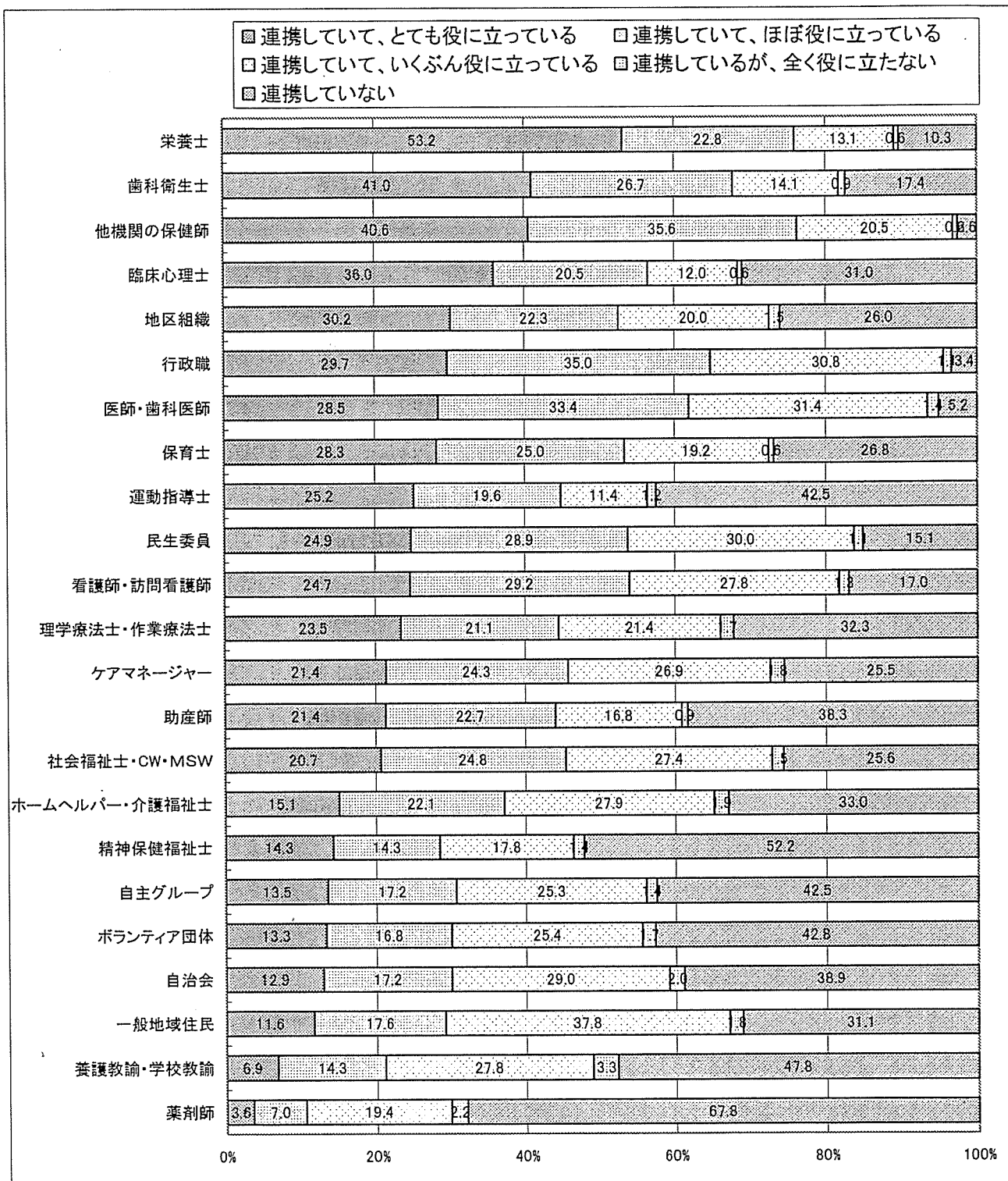


図 90 専門職との連携の有無及び有益性に関する項目の回答分布

保健師における一般的な連携活動状況

保健師における一般的な連携活動状況に関する項目について1,777名を対象に記述統計を行なった。
回答分布は表3、図13に示す通りである。

表 67 連携活動尺度の回答分布(n=1777)

項目	*回答カテゴリー			
	0	1	2	3
X1 あなたは、住民・利用者に対して保健事業や援助活動をしたとき、進行状況や結果を、関連する他の機関に報告していますか	21 (1.2)	102 (5.8)	1489 (84.9)	141 (8.0)
X2 あなたは、住民・利用者が、どんな制度や資源やサービスを利用しているか、把握していますか	20 (1.1)	519 (29.7)	1170 (67.0)	37 (2.1)
X3 あなたは、保健事業の実施やサービス提供に必要な知識や情報を、関連する他の機関(住民組織を含む)から集めていますか	14 (0.8)	457 (26.2)	1169 (67.1)	103 (5.9)
X4 あなたは、住民の相談内容や問題状況を基礎に関係する他部門や、関連する他の機関に対して必要とされる行政サービスやインフォーマルなサービス、事業、資源・制度、保健・介護および福祉サービスの内容を文章化し、提案していますか	387 (22.1)	892 (51.0)	431 (24.6)	39 (2.2)
X5 あなたは、関連する他の機関(住民組織を含む)に協力を要請しますか	57 (3.3)	308 (17.6)	1068 (61.2)	313 (17.9)
X6 あなたは、関連する他の機関(住民組織を含む)から協力を要請されますか	47 (2.7)	529 (30.4)	1067 (61.3)	99 (5.7)
X7 あなたは、ご自分と関連する専門職の集まりだけでなく、他の職種・専門職の集まり(会議)にも参加していますか	152 (8.7)	1165 (66.5)	430 (24.6)	4 (0.2)
X8 あなたは、関連する他の機関(住民組織を含む)から、その機関の業務や実施に関する内容を聞いていますか	52 (3.0)	897 (51.4)	793 (45.4)	4 (0.2)
X9 あなたは、関連する他の機関(住民組織を含む)にどのような専門職がいるか、把握していますか	31 (1.8)	490 (28.0)	1201 (68.6)	29 (1.7)
X10 あなたは、事例検討会などの説明会への参加を、同僚に呼び掛けますか	128 (7.3)	509 (29.1)	919 (52.6)	191 (10.9)
X11 あなたは、関連する他の機関(住民組織を含む)や他の職種との親睦会に参加しますか	261 (14.9)	1128 (64.4)	353 (20.2)	9 (0.5)
X12 あなたは、新規の保健師が就任した場合、関連する他の機関(住民組織を含む)に挨拶回りをしますか	92 (5.3)	434 (24.9)	919 (52.6)	301 (17.2)
X13 あなたは、複数の関連する他の機関(住民組織を含む)が参加する会議などにおいて、自分の判断で一定の費用を決定していますか	1142 (65.6)	438 (25.2)	148 (8.5)	12 (0.7)
X14 あなたは、自分の業務内容について、関連する他の機関(住民組織を含む)に資料、情報を伝達していますか	101 (5.8)	692 (39.6)	929 (53.1)	27 (1.5)
X15 あなたは、複数の関連する他の機関(住民組織を含む)・専門職で集めた利用者の情報を、管理していますか	176 (10.1)	620 (35.4)	894 (51.1)	59 (3.4)

*回答カテゴリー

- X1:「0:全く報告しない」「1:あまり報告しない」「2:必要に応じて報告する」「3:いつも報告する」
- X2, X9:「0:全く把握していない」「1:あまり把握していない」「2:ある程度把握している」「3:大変よく把握している」
- X3:「0:全く集めていない」「1:あまり集めていない」「2:だいたい集めている」「3:よく集めている」
- X4:「0:全くしていない」「1:あまりしていない」「2:ある程度している」「3:よくしている」
- X5:「0:全く要請しない」「1:あまり要請しない」「2:よく要請する」「3:大変よく要請する」
- X6:「0:全くされない」「1:あまりされない」「2:よくされる」「3:大変よくされる」
- X7, X11:「0:全く参加しない」「1:あまり参加しない」「2:かなり多くの集まりに参加する」「3:すべて参加する」
- X8:「0:全く聞いてない」「1:あまり聞いていない」「2:よく聞いている」「3:すべて聞いている」
- X10:「0:全く勧めない」「1:あまり勧めない」「2:ある程度勧める」「3:積極的に勧める」
- X12:「0:全く回らない」「1:あまり回らない」「2:回る」「3:いつも回る」
- X13:「0:全くない」「1:あまり持っていない」「2:だいたい持っている」「3:いつもある」
- X14:「0:全くしない」「1:あまり配布していない」「2:だいたい配布している」「3:すべて配布している」
- X15:「0:全く管理していない」「1:あまり管理していない」「2:だいたい管理している」「3:すべて管理している」

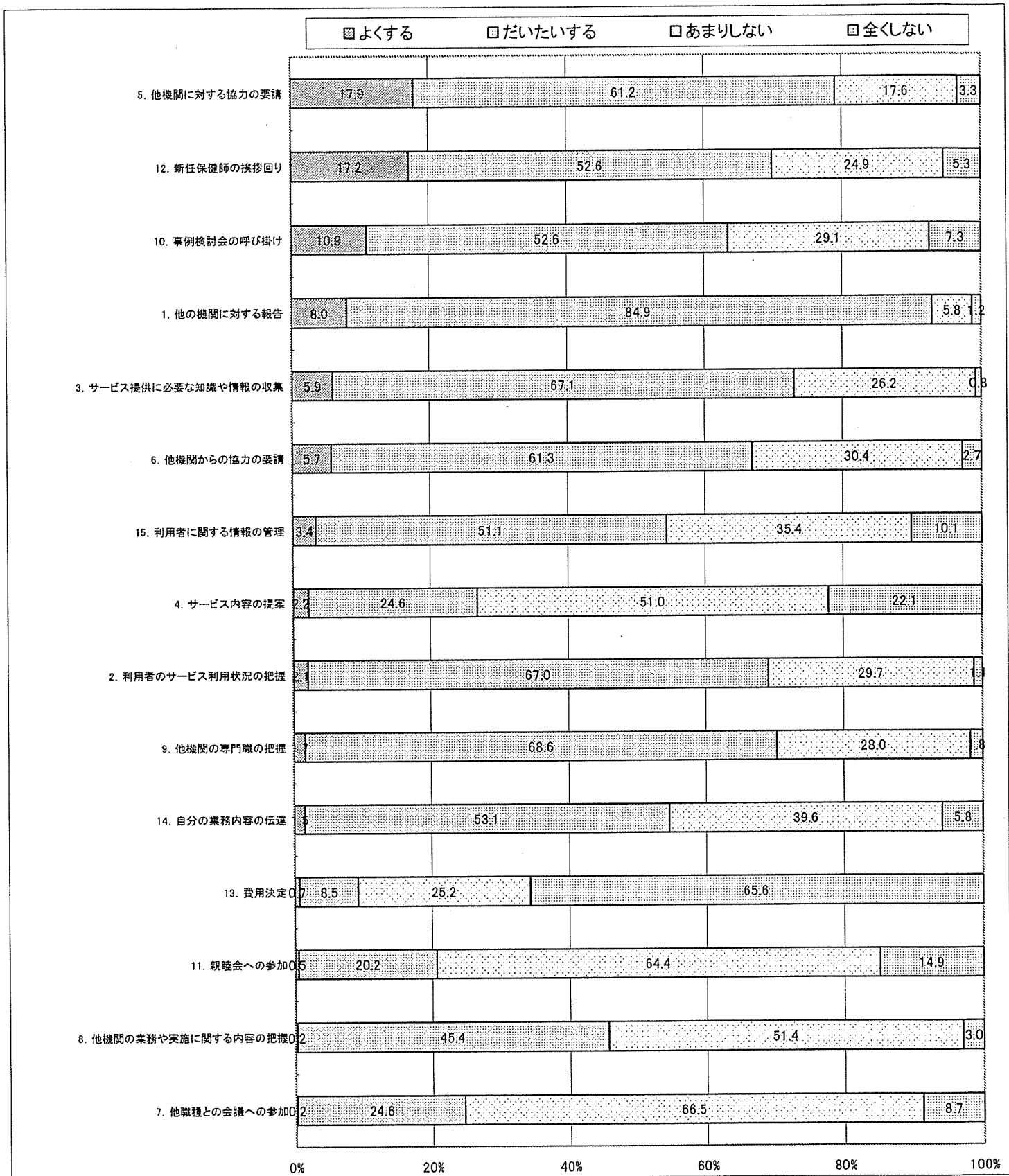


図 91 連携活動尺度の回答分布

日常の業務評価と業務負担感

日常の業務評価

日常の業務評価に関する項目について欠損値のない1,777名を対象に記述統計を行なった。回答分布は下記の通りである。

回答「いつも」に着目するなら、「その日のうちにはとても終わりきらない業務、頻度」、「新しい知識や技術の修得が必要な業務、頻度」、が多かった。回答「ない」に着目するなら「急いで、仕上げなければならない業務、頻度」が少なかった。

項目	頻度		
	ない	ときどき	いつも
X1 急いで、仕上げなければならない業務、頻度	28 (1.6)	1289 (73.4)	439 (25)
X2 その日のうちにはとても終わりきらない業務、頻度	147 (8.4)	1077 (61.4)	530 (30.2)
X3 一度にたくさんの種類が重なった業務、頻度	129 (7.4)	1220 (69.6)	404 (23)
X4 意にそぐわない業務、頻度	423 (24.2)	1247 (71.3)	79 (4.5)
X5 自分に権限がない業務、頻度	353 (20.2)	1212 (69.5)	179 (10.3)
X6 難しすぎて手に負えない業務、頻度	387 (22.1)	1301 (74.3)	64 (3.7)
X7 関係する法律・制度がはっきり分からない業務、頻度	514 (29.5)	1205 (69.1)	26 (1.5)
X8 自分だけでは処理しきれない業務、頻度	117 (6.7)	1516 (86.6)	118 (6.7)
X9 非協力的な職員と一緒にする業務、頻度	885 (50.5)	818 (46.7)	48 (2.7)
X10 情報が得にくい業務、頻度	350 (20)	1366 (78.1)	34 (1.9)
X11 人員配置が不十分な業務、頻度	273 (15.6)	1047 (59.8)	430 (24.6)
X12 新しい知識や技術の習得が必要な業務、頻度	46 (2.6)	1328 (75.8)	377 (21.5)

表 68 日常業務評価に関連する要因の回答分布

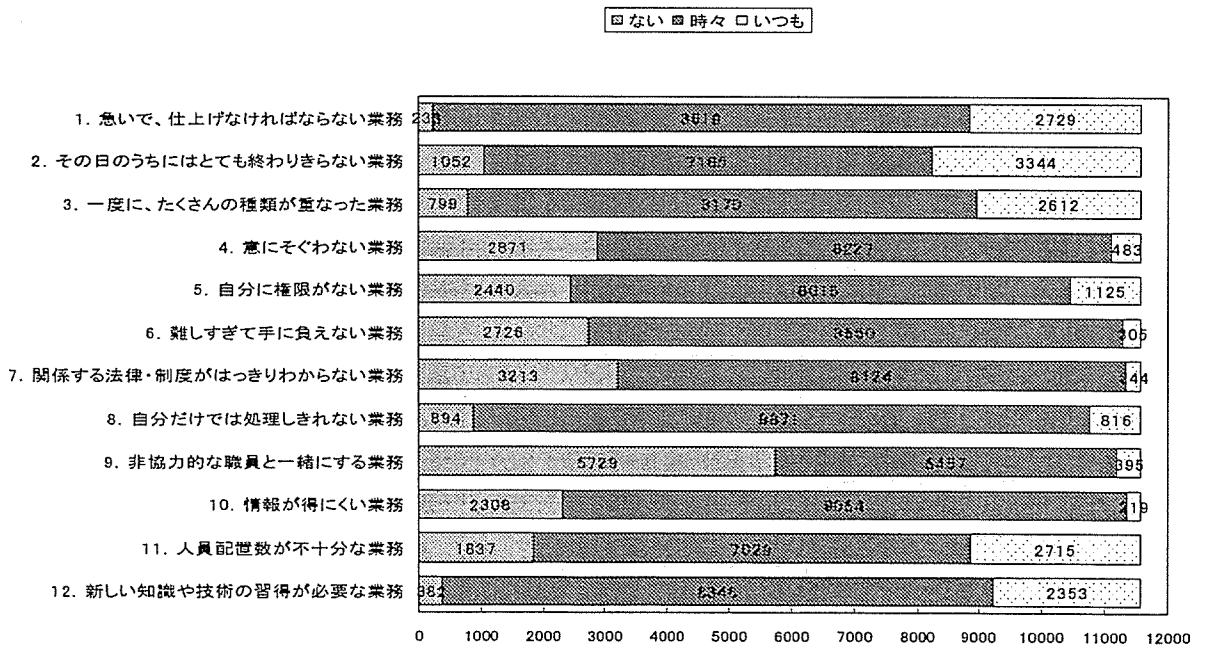


図 92 日常業務評価に関する項目の回答分布

業務負担感

日常の業務について、それをどの程度負担に感じるかどうかに関する項目の回答分布は表 5、図 15 に示す通りである。回答「かなり」に着目するなら「一度に、たくさんの種類が重なった業務、負担」、
「難しすぎて手に負えない業務、負担」をすることを負担だと感じている者が多かった。回答「まったく
くない」に着目するなら「急いで、仕上げなければならない業務、負担」をすることを負担だと感じて
いる者は少ない傾向にあった。

表 69 業務負担感に関連する要因の回答分布

項目	負担の程度		
	全くない	少し	かなり
X1 急いで、仕上げなければならない業務、負担	81 (4.6)	1008 (57.6)	660 (37.7)
X2 その日のうちにはとても終わりきらない業務、負担	160 (9.2)	961 (55.2)	621 (35.6)
X3 一度にたくさんの種類が重なった業務、負担	142 (8.2)	799 (46.1)	793 (45.7)
X4 意にそぐわない業務、負担	392 (22.6)	813 (46.9)	527 (30.4)
X5 自分に権限がない業務、負担	541 (31.3)	946 (54.7)	243 (14)
X6 難しすぎて手に負えない業務、負担	333 (19.4)	639 (37.2)	748 (43.5)
X7 関係する法律・制度がはっきり分からない業務、負担	490 (28.6)	907 (52.9)	317 (18.5)
X8 自分だけでは処理しきれない業務、負担	153 (8.8)	992 (57.2)	589 (34)
X9 非協力的な職員と一緒にする業務、負担	776 (45.5)	459 (26.9)	470 (27.6)
X10 情報が得にくい業務、負担	335 (19.4)	1059 (61.3)	333 (19.3)
X11 人員配置が不十分な業務、負担	257 (14.9)	833 (48.2)	639 (37)
X12 新しい知識や技術の習得が必要な業務負担	128 (7.4)	1097 (63.1)	513 (29.5)

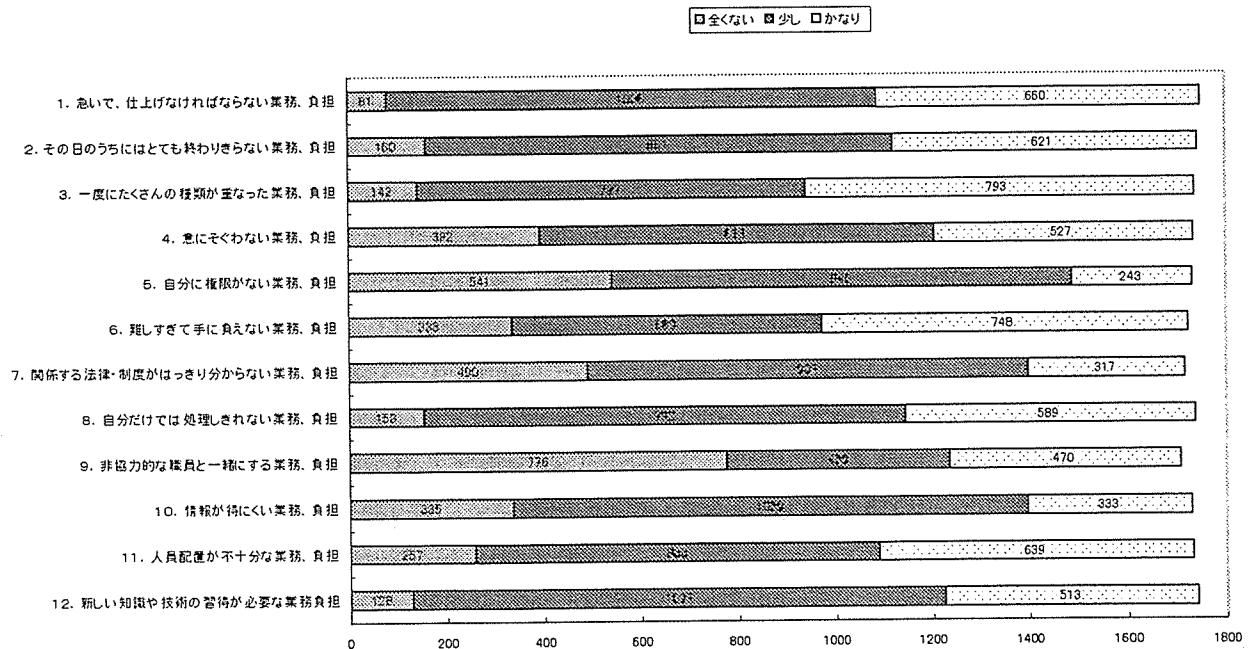


図 15 業務負担感に関する項目の回答分布

精神的健康度

保健師の精神的健康度については、General Health Questionnaire (以下 GHQ とする) 12 項目を用いて測定を行った。回答分布は表 6、図 16 に示すとおりであった。なお、項目の得点化には GHQ 採点法を採用することとした。GHQ12 項目版の平均得点は 3.82 点(標準偏差 2.96、範囲 0-12 点)であった(表 6)。

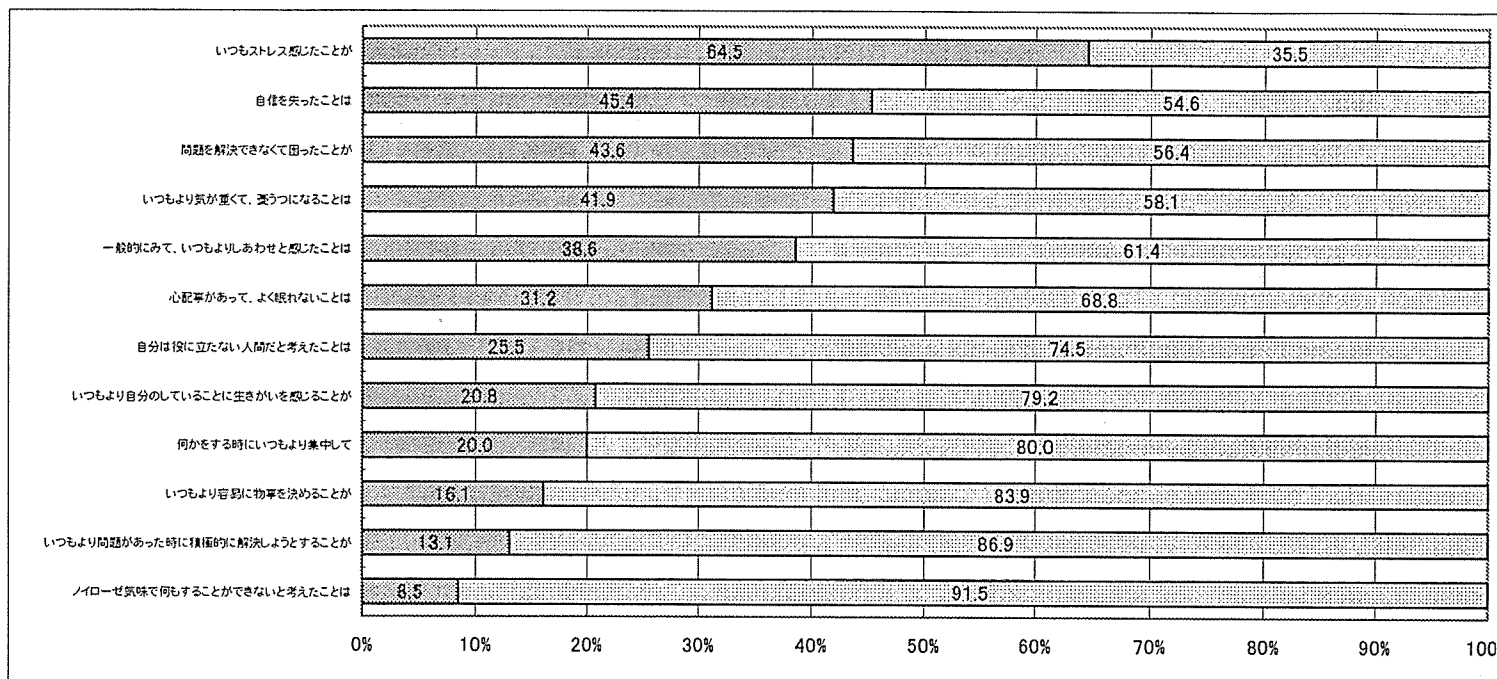


表 70 精神的健康についての回答分布 (n=1777)

項目	*回答カテゴリー			
	0	0	1	1
X12 ノイローゼ気味で何もすることができないと考えたことは	988 (56.4)	616 (35.1)	129 (7.4)	20 (1.1)
X7 いつもより問題があった時に積極的に解決しようとするこ	191 (10.9)	1333 (76.0)	219 (12.5)	11 (0.6)
X4 いつもより容易に物事を決めることが	82 (4.7)	1390 (79.2)	270 (15.4)	12 (0.7)
X1 何かをする時にいつもより集中して	154 (8.8)	1250 (71.3)	330 (18.8)	20 (1.1)
X3 いつもより自分のしていることに生きがいを感じる事が	234 (13.3)	1156 (65.9)	319 (18.2)	45 (2.6)
X10 自分は役に立たない人間だと考えたことは	351 (20.0)	956 (54.5)	380 (21.7)	68 (3.9)
X2 心配事があって、よく眠れないことは	405 (23.1)	803 (45.8)	452 (25.8)	95 (5.4)
X8 いつもより気が重くて、憂うつになることは	230 (13.1)	790 (45.0)	594 (33.8)	143 (8.1)
X6 問題を解決できなくて困ったことが	99 (5.6)	889 (50.7)	660 (37.6)	105 (6.0)
X9 自信を失ったことは	146 (8.3)	813 (46.3)	657 (37.4)	139 (7.9)
X5 いつもストレス感じたことが	22 (1.3)	601 (34.2)	822 (46.8)	311 (17.7)
X11 一般的にみて、いつもよりしあわせと感じたことは	112 (6.4)	963 (55.0)	603 (34.5)	72 (4.1)

*回答カテゴリー

X1,X4:「0:できた」「0:いつもと変わらなかった」「1:いつもよりできなかった」「1:まったくできなかった」
 X2,X5,X6,X9,X10,X12:「0:まったくなかった」「0:あまりなかった」「1:あった」「1:たびたびあった」
 X3:「0:あった」「0:いつもと変わらなかった」「1:なかった」「1:まったくなかった」
 X7:「0:できた」「0:いつもと変わらなかった」「1:できなかった」「1:まったくできなかった」

図 93 精神的健康に関する項目の回答分布

専門性に対する評価

13,024名の保健師の自由記載の分析を行った結果、保健師が「評価して欲しい」と考えているのは、特定の業務を評価して欲しいというより、保健師が専門性を生かして業務を実施していることに対する評価を望んでいるという回答が3,447名から示された。「保健師の専門性を評価して欲しい」という回答は1,025名にものぼり半数近くを占めていた。

また、この専門性の評価する視点として、「他機関、他職種との連携をしている」ことをあげていたものが544名、「看護・保健・医療・福祉等幅広い視点から関与している」355名、「ケースワークをしている」302名、「コーディネーター、スタッフ間調整をしている」258名、「地域全体の健康増進、健康度の向上に努めている」155名、「困難事例に対応している」136名と続いていた。

このように保健師にとって専門性をいかした業務とは、第一に、「連携、コーディネーター、スタッフ間調整、調整」と回答した者が最も多かった。第二に、「ケースワーク」、「個別事例への対応」「訪問業務」といった個別への対応が多く、第三として、「地域全体、総合的、個別と集団対応への連動」という用語に示されているように、個別事例への対応だけでなく、地域や全体への集団へのアプローチができることを評価して欲しいと考えていることが示された。

表 71 保健師が評価して欲しい「専門的な業務内容」

業務の内容	計
専門職として専門性を業務に生かしている	1025
他機関、他職種との連携をしている	546
看護・保健・医療・福祉等幅広い視点から関与している	355
ケースワークをしている	302
コーディネーター、スタッフ間調整をしている	258
地域全体の健康増進、健康度の向上に努めている	155
困難事例に対応している	136
総合的に捉える視点で対応している	131
新しい事業展開、サービスの掘り起こしをしている	115
予防活動をしている	111
訪問業務	101
住民の組織化、育成をしている	78
個別と集団対応を連動させている	43
地域診断をしている	31
他職種へ指導、支援している	24
「保健」「健康」を切り口に対応している	18
総合計画への反映(計画策定)	10
保険料、医療費等の軽減	6
未受診者、率を減らそうとしている	2
総計	3447

活動の視点に対する評価

活動の視点に対する評価に関しては、「住民の声を大切に、住民の身近な存在として、住民の立場で住民を第一に考えている」という回答に代表されるように、常に住民と共に問題解決を図ろうとしている業務態度や業務をする際の理念を評価して欲しいという回答も 2,948 名と多かった。

この住民の声を大切にしているという姿勢を具体的に示す内容としては、「住民の住民の声を施策に反映させている」が 555 名、「住民の話をよく聞いている」が 236 名、「住民への援助をしている」が 117 名、「住民と協働で事業を実施している」が 91 名、「住民への情報提供をしている」72 名、「声を上げにくい住民の声、気持ちを大切にしている」69 名と示された。

保健師は、住民にとって身近な存在であり、これにより、住民の具体的な問題解決を図ることができるという職能を持っていることを評価して欲しいと考えていることが推察された。

表 72 保健師が評価して欲しい「活動の視点」

項目	計
住民の声を大切に、住民の身近な存在として、住民の立場で住民を第一に考えている	1748
住民の声を施策に反映させている	555
住民の話をよく聞いている	236
住民への援助をしている	117
住民と協働で事業を実施している	91
住民への情報提供をしている	72
声を上げにくい住民の声、気持ちを大切にしている	69
自立支援、自己決定支援をしている	60
総計	2948

保健師が評価してほしい業務の「成果に関する課題」

一方、この調査では、「評価して欲しい業務内容」を依頼したが、多くの保健師らは、自らの活動の成果を数量的な指標を用いて表現することが難しいことを強調していた。同様の内容を書いた保健師は 1,268 名もいた。とくに「保健、予防活動は長期的視点でないと数に表せない、数値化しにくいいため、評価が難しい」との回答は、244 名と多かった。

ただし、数値化しにくい内容ではあるが、これを明らかにしようと「調査や統計処理をしていることを評価して欲しい」と回答した保健師も 233 名いた。

このため保健師は、単に事業を実施しているだけでなく、実施している「事業の質や内容を評価して欲しい」あるいは、「事業を実施しながら事業の評価や見直しを随時行なっている」ことを評価してほしいとの回答も 185 名と多かった。また、数量化はできないが、事業によって住民の行動変容が起こっていることを評価して欲しいとの回答も 166 名と多かった。